

鐘聲

右ノ題ハハナニキ

溝ニ白羊

鐘の音が迫つて来る
音階を越えて融け込んで来る餘韻だ

今此處にゐる一團の人たちは
宗教も、専門藝も、家門も、國籍も、そ

れぞれ皆違ふけれど
同じ鐘のひびくの中に
快く融け合つてゐる

尊い瞬間の三人——
白哲のフランス人と
鬚づらの波斯の將軍と
そして黄色い肌の
疎林を越して来た秋の日の照る

和歌

二九(五分)